

第 37 回横浜マリンボールカップ 男子Cゾーン決勝 7月31日(日)

レッズ宮前ミニバスケットボールクラブ 48 vs 39 今泉ミニバススポーツ少年団

レッズ宮前は 158 センチ以上の選手が 4 名、今泉ミニバスは 150 センチを超える選手は 1 名と、高さの違いを感じさせる一戦。

1Q

お互いハーフコートマンツーマンで始まり、ディフェンス、オフェンスともに、良いリズムで点数を重ねていった。中でも今泉の速攻の速さに、レッズ宮前がなかなかついていけず、3 回もきれいにシュートを決められてしまった。

対するレッズ宮前は #7 が時間のコントロールをしながら 1 対 1 を仕掛け、1 Q だけで 8 点を奪った。レッズ宮前の 1 対 1 の強さ、今泉のスピードなどお互いが持っている力を出し合い、まずはレッズ宮前が 3 点リードで終了。

2Q

レッズ宮前の #4 と #5 の合わせのプレーが 2Q 目に入ってすぐに決まり、点を重ねた。その合間でも今泉は #10 の巧みなフローターシュートで攻勢しお互い点差が動かない時間が続いた。今泉が勢いに乗って速攻を決め、最後は 18 対 18 と同点で前半終了。

3Q

第 3Q はレッズ宮前の選手は 160 センチ以上の選手が 3 名出場となり、今まで以上に今泉にとってはサイズに苦しむ展開を強いられることが予想される。

だが、ゲーム開始 10 秒で今泉 #10 のドリブルシュートが決まり、今泉の勢いは依然、前半のままをキープし、前半の教訓からレッズ宮前 #7 へのディフェンスがさらに厳しくなった。そして、今泉 #6 のレッズ宮前 #4 に対する果敢な 1 対 1 でカウントワンスロー。

フリースローを気持ちよく沈めた。このフリースローでレッズ宮前 22-今泉 23

しかし、ここからレッズ宮前の反撃が始まり、#7 が高い位置からの 1 対 1 を思い切りの良さで決めて、今泉の勢いを止めた。そしてレッズ宮前の #5、#7 が連続でシュートを決め、31 対 27 でレッズ宮前が 4 点リードで 3Q 終了。

4Q

今泉は徹底したハーフコートディフェンスとボールへの寄りを更に早く行いメイクチャンスを狙う。オフェンスでも、試合終盤での疲れを感じさせないスピードでのドリブルシュートで相手のファールを誘う。それを受けてレッズ宮前の#7はリバウンドからの速攻を決め始める。この速さを今泉は止めることができず、残り4分で点差が9点まで広がってしまった。今泉はレッズ宮前のリバウンドからの速攻に苦しむが、終始、相手のファールを誘う力強い1対1を繰り返し、フリースローで少しずつ点差を縮める。その結果、レッズ宮前#7はファールが4回となった。今泉は一時は点差を6点差まで縮めることはできたが、シュートが絡むファールが続き、9点まで点差が広がる。残り30秒でも今泉#13から#10の2対1で2点を奪い最後まで粘るも、48対39でレッズ宮前の勝利。

協力/南部ミニバスケットボール連盟技術委員会

